

■ 経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例

平成27年度

開催日	委員からの質疑・意見	対応内容
平成26年度第6回 平成27.3.20（金）	平成27年度学内予算について 大学院の定員充足のためには、大学の魅力を増して、受験者を増やすことが大切。私立大学は受験者をいかに確保するかに力を入れており、国立大学も自己努力をすべきである。	直進者の受験者増のため、4年生が集まる機会に説明会を実施したほか、修士課程担当教員が教職大学院の授業担当者として講義を行えるようにした。 また、受験データから受験者の多い愛知・岐阜・三重県内の私立大学（16大学）の就職支援担当部署へ訪問を行った。 併せて、受験者確保に向け、出願条件や受験科目の緩和等についても検討を進めている。
第1回 平成27.4.30（木）	平成27年度科学研究費助成事業の申請・内定状況について 教員の研究費に関する考え方に係わって、それぞれの教員が考える機会が必要ではないか。科研費申請なら100%できることを自覚していただきたい。	平成27年7月に外部講師による科学研究費補助金勉強会及び9月に公募説明会を開催し、教員に対する詳細な説明を行った。また、科学研究費補助金の申請に対するインセンティブを導入した。その結果、申請率が前年度比10%向上した。
第4回 平成27.12.21（月）	愛知県内公立学校教員採用試験の受験者数・受験率等について 教員採用試験受験の意思決定に実習体験が影響していることを大学は真摯に受け止め、カリキュラムや、指導の在り方の改革を検討すべきである。	平成26年度から3年次の主免実習が4週間から3週間と短くなり、実習開始から授業実習を行うまでの準備期間も短くなった。余裕がない中で実習生たちが思うように進められない可能性があり、それを防ぐため事前指導の充実を行うこととした。具体的には道徳の指導案作成のため1コマ事前指導を増やすことやDVD教材の活用及びパソコン操作の講習会を積極的に利用する等を周知することとした。
	「教員採用試験を受験しなかった理由アンケート」の記述回答を参考に受験者が減っている原因を考えてほしい。	就職支援委員会、キャリア支援センター会議、教員採用試験支援連絡協議会にアンケート結果を資料として提供し、意見交換を行った。 対策として、低学年に対して教職に対する魅力や意識付けのため、3年生には1年を通して愛知県・名古屋市の校長経験者による講義・相談対応を行い、1、2年生には新たに各2回教員就職ガイダンスを実施した。
	3年の教育実習終了後に、「学校現場が大変だから」という理由で教員志望をやめていることは大変ショックなことである。本来は大変だが頑張ろうと思うような学生を育てることが大事であり、そこを検討して行ってほしい。	現1年生から、2年次において学校サポート活動を選択科目として導入するが、平成29年度入学生からはこれを必修化し、併せて1年次に初年次学校体験活動を導入し、低学年時から学校現場の理解を深めるなど実践力育成に努めることとしている。

※経営協議会の各議案に関する基本的な質疑・応答については、省略している。